

米国株、中間選挙後は上昇のアノマリー

中間選挙翌年のNYダウは第2次世界大戦後19回中18回上昇

2022年10月24日

戦後19回の平均上昇率は15%で、今回も注目

4年に1度の米国中間選挙後から翌年（大統領選挙前年）末にかけて株式市場が上昇するアノマリー（よく当たる経験則）がよく知られています。第2次世界大戦後では、中間選挙翌年のNYダウの年間騰落率は19回中18回プラスで、平均15%の上昇率でした。大統領選挙を有利に進めるために現職の大統領が景気浮揚策をとることが多いほか、対立候補も景気に前向きな政策を打ち出しがちなことなどが株価を後押しするのではないかとされています。

また今年は5年に1度の中国共産党大会の開催年でもあります（共産党大会が5年毎となったのは1982年以降）。中間選挙と共産党大会が同年に開催されたのは1982年と2002年ですが、西暦末尾が2の中間選挙年のNYダウは中間選挙前まで弱含みで推移するものの、中間選挙後は上昇する傾向が見られます。

とりわけキューバ危機のあった1962年（右下図緑色）には年初から調整し、10月22日にはキューバの海上封鎖が実行され核戦争が懸念されましたが、10月27日にソ連がキューバからミサイルを撤去すると発表したことによって危機は回避され、中間選挙後に上昇トレンドに入りました。

過去の値動きは将来を約束するものではありませんが、果たして今回も経験則通りとなるのでしょうか？ 米国中間選挙は11月8日（火）に予定されています。

NYダウ 最近の中間選挙年前後の推移

（大統領選挙年の年初＝100）

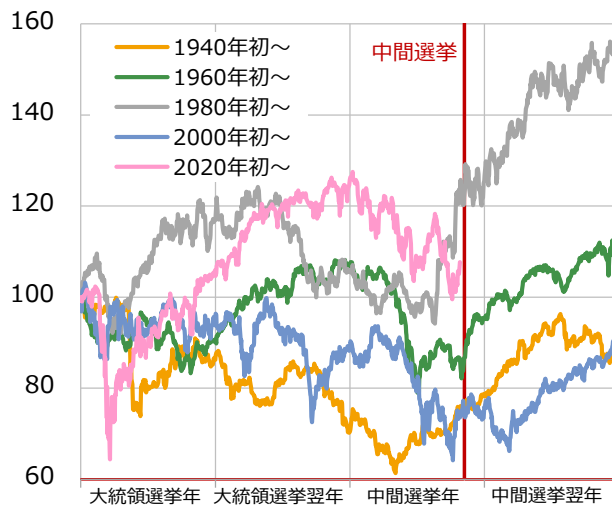


※「2020年初～」は2022年10月21日まで

（出所）ブルームバーグより大和アセット作成

NYダウ 西暦末尾が2の中間選挙年前後の推移

（大統領選挙年の年初＝100）



※「2020年初～」は2022年10月21日まで

（出所）ブルームバーグより大和アセット作成

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント